7）学生による忍ヶ丘教養Ⅰ～Ⅳの授業評価及び改善について

忍ヶ丘教養Ⅰ～Ⅳは、Ⅰ年前期（Ⅰ）、1年後期（Ⅱ）、2年前期（Ⅲ）、2年後期（Ⅳ）に開講するように配置している。また、授業形態は、忍ケ丘教養Ⅰ＆Ⅱでは担当教員が分担して担当するオムニバス形式で、忍ケ丘教養Ⅲでは、授業の 9 割以上が外部講師により開講するオムニバス形式で、また、忍ケ丘教養Ⅳでは学生は教員当たり数名に分かれて特定の課題について調査・研究し、最後に一同に会して発表する合同形式で実施している。なお、忍ヶ丘教養Ⅳでは教員は課題研究を行っている学生に対して指導・助言するのみで、学生に主体的に調査・研究を行わせるようにしている。

これらの授業科目は当然のことながら、学生による授業評価を行っており、授業評価により指摘された事項について改善を図る必要がある。そのために授業点検シートを作成し学生にフィードバックを行う必要がある。

忍ケ丘教養Ⅰ～Ⅳが学部の教養教育とした位置付けのため、教育学部の FD 研修会第 8 回（平成 28 年 3 月 18 日（金））において議論（FD 研修会報告 7p～8p 参照）し、さらに、それぞれ忍ケ丘教養Ⅰ～Ⅳを担当する教員により、学生による授業評価の評価点やコメントを整理し、これらを授業点検シートとして提出をお願いした。以下に報告する。

１）「忍ケ丘教養Ⅰ」の学生による授業評価について

「忍ケ丘教養Ⅰ」の学生による授業評価は、平成 26 年度入学生では 3.74 点、平成 27 年度入学生では 3.48 点であった。コメント欄では前者の学生は、論文の読み方やパワーポイントを使い発表練習をしたりなど、バラィティーに富んだ授業で、また理解しやすかった、色々なことが学べた、知っておきたいことが学べて良かったなどのコメントがあった。一方、後者の学生では、論文の読み方について印象が強かったためか、良かったとコメントしていた。一方、少数の学生で意味が良く分からない、内容が理解できないとコメントした学生がいた。

以上のように、２ヵ年の忍ヶ丘教養Ⅰでは授業内容や進め方についてほとんど問題がないと判断された。なお、平成 27 年度入学生でネガティブな反応を示す学生について、その他の授業科目における授業評価でも同様に「意味が分からない・内容が理解できない」とコメントしているようであった。

２）「忍ケ丘教養Ⅱ」の学生による授業評価について

「忍ケ丘教養Ⅱ」の学生による授業評価は、平成 26 年度入学生では 3.39 点、平成 27 年

度入学生では 3.44 点であった。

「平成 26 年度入学生」のコメント欄では、「良かった点」として、グループ学習で毎回ランダムに入れ替えられたことから、色々な同級生と話せたことが良かった、話し合いの時に気を付けないといけないことなどが学べたことなどをコメントしていた。一方、悪かった点として、前期で学んだことがあったので、違うことを教えて欲しい、担当教員が交代する度に授業内容も変わるので、前回とのつながりが良く分からない、グループの分け方が学生に任せられて同じメンバーばかりになるので、変えて欲しいことなどがコメントされた。必要に応じて改善すべきと考えられた。

「平成 27 年度入学生」のコメント欄では、「良かった点」として、学年進行に伴いプレゼンテーション力や論文の読み方などしっかり鍛えられたこと、一般常識を身につけられたこと、アクティブラーニングが多く導入されていてよかったこと、グループ学習で話し合う機会が多かったことなどをコメントした。一方、「悪かった点」として、当たり前のことや常識的なことを確認したりする授業があり、つまらなかったことやグループ学習を抽選で決める時に良く休む学生がいるので調整を考えて欲しいとのコメントがあった。

以上のように、2ヵ年にわたる忍ヶ丘教養Ⅱでは、授業の進め方について教員間の調整に問題があり、内容が断片的で「つながり」が感じられるように注意を払う必要がある。また、グループ学習では、グループの決め方を学生の自主性に任せる方法と抽選等による方法などを適宜必要に応じて採用することを検討する必要があろう。これらについて、授業点検シートに改善点として記述しており、次学期には速やかに反映させるようにした。

３）「忍ヶ丘教養Ⅲ」の学生による授業評価について

「忍ケ丘教養Ⅲ」の学生による授業評価は、平成 26 年度入学生では 3.62 点であった。

「平成 26 年度入学生」のコメント欄では、「良かった点」として、現場の教員（公立小学校のスーパーティーチャー）の話が聞けたことがコメントされた。一方、悪かった点として、現場の教員の話がもっと聞けたら良かった、最初の方は何を学んだかさっぱり分からなかったなどがコメントされた。

忍ケ丘教養Ⅲは、シラバスにおける授業目的として、「①宮崎県の歴史、地理、郷土の偉人の思想や生涯を学ぶことで、他の地域との比較から地域の特徴を学ぶ。次に、②宮崎県出身の偉人の思想と生涯について学ぶことで、自身の生きる指針を定め、地域に貢献することの意義を理解する、さらに、③宮崎県の教育や福祉の現状や課題について行政機関や学校現場に所属する講師の講話を通して地域の教育についての自分なりの課題を発見し、自身のキャリアデザインを構築する手がかりとする。最後に、④国際的な教育問題ついてその問題

と解決策について認識する」ことを掲げている。すなわち、宮崎県公立学校教員を目指す学生にとって、教員採用試験の問題として、宮崎県の歴史～偉人・賢人の思想と生涯を学び、また、地域における教員の講話を通して自分の課題を発見することや国際的な教育問題などが出題されることから、これらに対応するために本授業を配置している。従って、学生のコメントを見る限り、忍ケ丘教養Ⅲの授業の目的・趣旨が学生へしっかりと伝わっていないことが原因と思われることから、次学期の本授業ではしっかりと繰り返し説明を行うように授業点検シートを作成することにした。

以上のように、忍ヶ丘教養Ⅲでは、授業の目的・趣旨について学生にしっかりと伝えることが課題として浮かび上がった。なお、授業評価点は 3.62 点であり、授業内容には問題はないと考えている。

４）「忍ヶ丘教養Ⅳ」の学生による授業評価について

「忍ケ丘教養Ⅳ」の学生による授業評価は、平成 26 年度入学生では 3.71 点であった。

「平成 26 年度入学生」のコメント欄では、「良かった点」として、自分の興味ある分野について調べることが出来た、自分の興味が広がった、卒業論文の練習になった、自分の課題について時間をかけて調べることが出来たことなどをコメントした。一方、改善して欲しい点として、2 会場に分けて発表したためか合同発表会にして欲しい、課題によっては詳しい先生に指導・助言を受けたい、要旨だけではなく論文的な文章にも取り組めると良かったなどがコメントされた。

忍ケ丘教養Ⅳは、忍ケ丘教養Ⅰ～Ⅲで学んだことの中から自分が興味を持った課題について、他者に如何に伝えるか，資料収集・整理・口頭発表・質疑応答を行うための方法・技術を学ぶことを目的としている。また、学会等でプレゼンテーションすることを念頭において必要な知識・技術の基礎修得を目標にしている。従って、学生による授業評価点やコメントを見る限り、本授業の目標はかなり達成できたものと考えている。

なお、コメント欄及び教育学部 FD 研修会で課題として取り上げられたこととして、①担当教員の決め方について各教員から担当できそうなキーワードを聞き取り、一覧表にして学生に示し、配当案を作成した上で、教育学部教員の専門性を考慮して配属先を決定した。また、要旨を事前に教員に配布して欲しいとの要望や発表時間を 8 分間～10 分間とすること、成績評価について、採点はルーブリック評価基準に沿って評価するが、もう少し検討することになった。また、最も評価の高かった学生に優秀賞の授与することなどが提案された。